

# 所 信 表 明

平成30年12月4日

御浜町長 大 畑 覚

平成30年第4回御浜町議会定例会の開会にあたり、今後4年間の町政運営につきまして、私の所信の一端を申し上げます。

昭和33年9月1日、阿田和町、市木尾呂志村、神志山村が合併し、御浜町が誕生してから、早や60年の歳月が流れました。

今日の発展を遂げることが出来たのも、先人の方々の並々ならぬご努力と町民の皆様の深い郷土愛の賜物であり、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

また、去る9月30日に執行された御浜町長選挙におきましては、無投票で当選させていただき、10月10日から、引き続き町政運営の重責を担わせていただいております。

議員各位をはじめ全ての町民の皆様に対しまして、衷心より、厚く御礼を申し上げます。今日、こうして2期目の所信を表明させていただくにあたり、改めて、身が引き締まる思いであります。

これからも、今日まで守られてきた豊かな自然、育まれてきた文化、受け継がれてきた伝統を次世代に引き継ぎ、町民の皆様に「御浜町で暮らし続けたい」と実感していただけるよう、「みんなが輝く 希望と活力あるまちづくり」に向けて、町長として、全力で町政の推進に取り組んで参りますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨今、行政を取り巻く情勢は、地域経済の低迷や急速に進む少子高齢化により、人口減少社会の様々な困難に直面しており、本町においても、多様化する住民ニーズに対応し、持続可能な地域の発展と良質な行政サービスを提供するために、自治体としての自立性を一層高め、これまで以上に、より効率的で効果的な行政運営が求められてきています。

顧みますと、1期目の4年間は、加速度的な人口減少に歯止めをかけ、安全で明るく活気のある御浜町を取り戻したいとの思いから、町政の柱として、高速道路の整備、防災の強化、若者の定住対策、柑橘の振興、教育の充実、高齢者の生きがい対策の6策を重点施策に掲げ、取り組んで参りました。

これまでの4年間で、全ての事業に着手いたしましたが、完成までに至らなかった事業については、継続して取り組んで参ります。

私は、1期目の町政を進めていく中で、これからの御浜町の発展のために、これまでになかった新しい取り組みに挑戦してみたいとの思いを持つに至りました。

その一つが、「地域振興のための観光」であります。

この度、積水ハウスと世界最大手のホテルチェーン、マリオット・インターナショナルの提携によるホテルブランド、「フェアフィールド・バイ・マリオット」の御浜町への進出が正式に発表されたところであります。

町内へのホテルの進出は、先人より続くまちづくりの1つの成果であり、国内外から旅行者を集客するホテルとして、町内での雇用と地域経済の活性化に、大きな希望を抱かせる事業であると期待しております。

御浜町が、これまでの通過型から滞在型の観光を目指す絶好の機会であり、「年中みかんのとれるまち」御浜町の柑橘をはじめとする1次産業との共栄を進めると共に、観光関連事業者の起業等を促進することで、御浜町ならではの地域振興のための観光を目指したまちづくりを進めて参ります。

そのためにも、「高速道路の未事業化区間の新規事業化」を早期に勝ち取らなければなりません。

また、住みやすい町づくりを目指すためにも、6策や「地域振興のための観光」以外に、地域における医療・介護体制の充実、学校や家庭での生活環境の改善等、緊急性や必要性の高い事業を優先して取り組むと共に、町の財政健全化のための行財政改革や職員の資質向上にも努めて参ります。

私は、10名の議員の皆様、そして全ての住民の皆様からいただいたまちづくりに関わる様々な提案を、協議・検討した上で、種々選択し、官民が連携した町政を進めて参ります。

今後とも、「町内融和・一策入魂」を町政における政治信条として、「オール御浜」で取り組んで参りますので、議員各位並びに住民の皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げまして、2期目の町政運営にあたっての所信表明といたします。